

1. グループ名 都市型干潟の楽しい使い方研究チーム
2. 提案名 高島水際線公園での生き物の棲み処さがし活動
3. 活動の時期および内容

日にち	4月14日(25名)	5月12日(32名)	6月23日(24名)
実施内容	カイ掘り調査予行演習	カイ掘り調査本番	エビ釣り調査予行演習
日にち	7月4日(20名)	8月4日(32名)	9月22日(37名)
実施内容	エビ釣り調査	干潟調査・水質調査	ハゼ釣り予行調査
日にち	10月6日(31名)	11月2日(9名)	
実施内容	ハゼ釣り調査	ハゼ釣りリベンジ調査	

活動の様子



5月カイ掘り調査

- ウナギがいたと大興奮
- 変わった魚の第一発見者になろうと真剣
- 何を獲ったか情報交換



7月エビ釣り調査

- まずは自分の場所が釣れると信じて
- 釣れる場所や釣り方の情報交換



10月ハゼ釣り調査

- エサ取り(ゴカイ調査)から始める

- 道具を借りてそれぞれ調査

- ハゼにもいろいろ種類があることを知る

4. エリアマネジメントによる効果

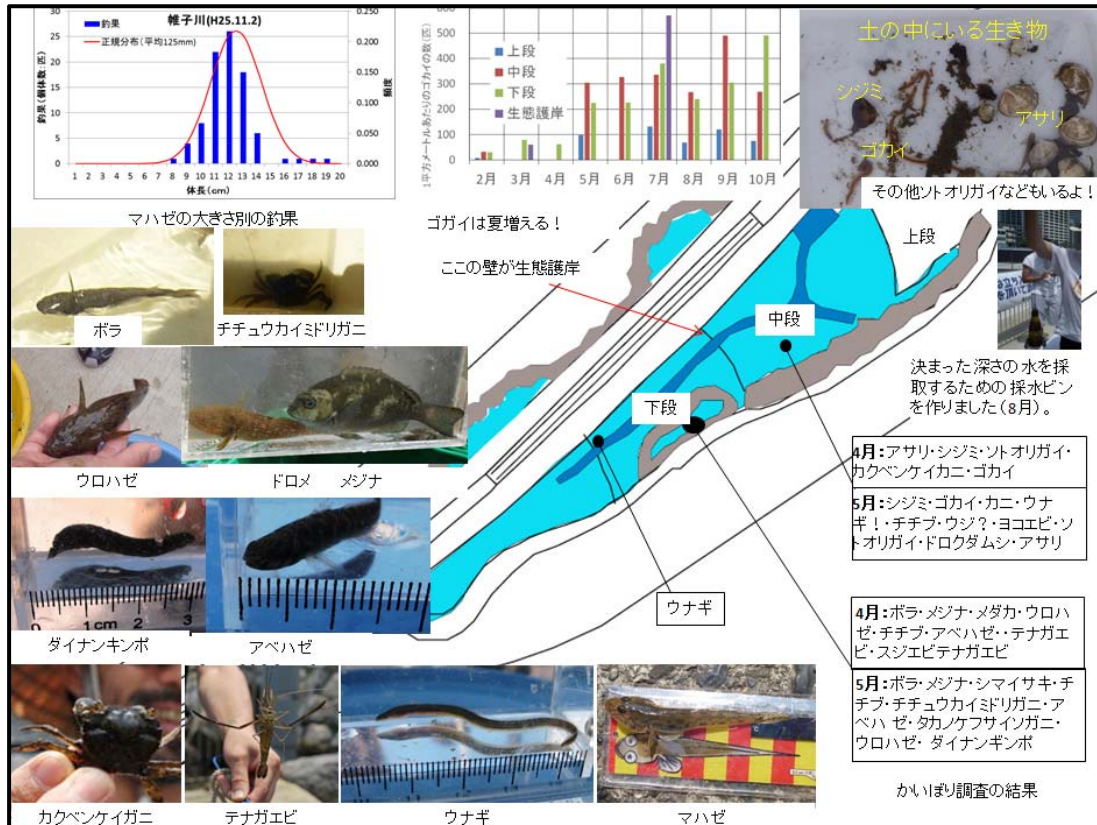
市民の参加動向：8回の調査に210名(スタッフ除く136名)が参加しました。

干潟環境の存在：下図に示すように様々な生物の生息を確認しました。

干潟調査の特徴：(前ページの活動の様子を参考に)

- ・野生の生物とふれ合い、自分なりの工夫で生き物取りを行います。
- ・生き物獲りを通じて、年齢にかかわらず様々なコミュニケーションが生まれます。
- ・我と時間を忘れて夢中になって活動します。

今年度の調査を通じて、地域の公園が様々な野生の生き物が集まる素敵な場所であることがわかってきました。また、生き物とのふれ合い活動は、人と人とのつながりをも生み出すことが、少しずつ実感されつつあると思います。



5. 今後の活動展望

生き物獲り、生き物さがしは昔の子供達ならだれでも経験のある楽しい思い出です。高島水際線公園は小規模ながらそうした思い出づくりができる可能性を持っています。

そのためには、様々な仕掛けが必要かもしれません。この干潟がふるさとにあった小川のように愛され、利用されるためには、奇をてらうことなく地道に楽しく活動をつづけ地域の人たちが加わってくことを待つことではないかと思えます。

研究チームの目的は下記に示したとおりですが、今後活動しやすいタイドプールや生き物生息場（ウナギが集まる場作りなど）の工夫を提案しつつ、より楽しい干潟づくり、干潟遊びを進めていくことを目指していきます。

<p>都市型干潟チームの研究目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ■科学の目: 都市の人工干潟がどのような場になるか? どうすればより良い干潟になるか? ■社会の目: 干潟が地域社会にどのように役立つか? (人が関わる場としての干潟のあり方)
--

収 支 決 算 書

団体名 都市型干潟の楽しい使い方研究チーム

1 収入

項 目	金 額	説明（負担者及び負担方法等）
交付された助成金（A）	451,070	
寄付等	112,768	
合 計	563,838	

2 支出（助成金対象経費分）

項 目	数量 (単位)	単 価	金 額	説 明
交通費	1式		225,535	内訳表別紙
釣り具レンタル費	1式		140,000	参加者市民への貸与
雑材料	1式		63,297	
材料費（測定具）	1式		55,006	塩分、DO測定
印刷費	1式		80,000	配布用MACS領収書
合 計（B）			563,838	$(B) \times 4 / 5 \geq (A)$

3 決算後の助成金の額

(1) $(A) \leq (B) \times 4 / 5$ の場合 (A) の額 ￥ 451,070. -

(2) $(A) > (B) \times 4 / 5$ の場合 (B) × 4 / 5 の額 ￥ . -